

第17回教育研究審議会

議事概要

日 時 令和2年1月15日(水) 午後4時00分～午後6時57分
場 所 本部棟 3階 大会議室
出席者 福田誠治学長、阿毛久芳副学長、新保祐司副学長、深澤祥邦事務局長、小林重雄理事、竹島達也大学院研究科委員長、西尾理学長補佐、加藤めぐみ学長補佐、平野耕一学長補佐、樋口雄人学長補佐、加藤敦子国文学科長、Hywel Evans 英文学科長、山本芳美比較文化学科長、原和久国際教育学科長、鳥原正敏学校教育学科長、春日尚雄地域社会学科長、野中潤図書館長(兼)情報センター長、廣田健教職支援センター長、竹下勝雄地域交流研究センター長、茂木秀昭国際交流センター長、豊嶋朗子語学教育センター長、市原学入学センター長、矢嶋亘総務課長、石川和広経営企画課長、藤江隆学生課長
欠席者 なし

福田学長より挨拶

2 議 事

(1) 特任教員の昇任について(国文学科)1件(投票)

◇(特任准教授→特任教授)Aタイプ

○投票の結果、信任多数により承認。

(投票結果) ○24 ×0 白0 計 24名。

(2) 非常勤講師の担当科目コマの発議・提案について(国文学科)2件

○担当から資料2-1に基づき「非常勤講師担当科目コマの発議・提案」について説明。

→提案通り承認。

◇国文学第一演習、国文学第二演習

◆担当者退職のため

◇国文学講読(近代)Ⅶ・Ⅷ、国文学講読Ⅷ(現代)、近代文学テーマ研究Ⅱ・Ⅳ

◆担当者退職のため

○担当から資料2-2に基づき「非常勤講師採用候補者の提案」について説明。

→提案通り承認(予定1年間)。

◇東京大学国語国文学・都留文科大学国語国文学・日本近代文学など

新規採用 ランクB

◇東京大学国語国文学・日本近代文学

新規採用 ランクC

→国文学講読Ⅷの授業計画を見ると、「伊藤整」を題材に読み解かれるものになっているが、伊藤整についての業績・評論はない。国文学講読は題材となる人物を専門に研究した

先生が担当し精読するスタイルとなっているが、この授業計画はいかがなものか。

→個人的意見であるが、大学教員が最先端の研究成果を連動させていくために、題材に対する業績はなく現在自身が研究している題材をテーマに授業を組み立てていくスタイルでも良いと考える。また、国文学科では現在評論科目がないためぜひお願いしたいと思っている。

→経験の深い教員が最先端の授業をしていくのは理解できるが、本人の研究年数が少ない方が行うということには違和感を覚える。また、テーマ研究についても担当するようであるがテキストは何を使用するのか。

→授業計画から想定すると、1冊のテキスト指定はできないのでレジュメを作成し配布になると考える。

→本来講読とは、題材とする作品をじっくりと読み解くものであるが、1つの題材作品を1回の授業で講読するのは不可能であると考ええる。

→最近の日本文学学科の授業の組み立て方の話題となってしまうが、特に都内の私立大学の講読はこのようなスタイルが主流となっており、ハイライト的に題材を取り上げることがスタンダード化してきている。本学の方針をどうするかという議論であれば学科で再度議論のうえ決定する必要がある。

→講読のスタイルが変化しているということであるが、講読は研究主体が読むということとは何かを求める学生に、問いかける必要があると考えるが、このスタイルだとカルチュラルスタディーズ系に思えてしまう。

→カルチュラルスタディーズ的な授業は読みが浅いと言えないはずで、読みの視点も変化しており、授業テーマにあるように、国際的な視野から日本文学・文化の特殊性を検討し自明の前提を相対化する視座を身につけるとなっており、違う読み方による組み立てになっている。すでに今までのスタイルの授業は専任教員が実施しているため、違うスタイルの授業を非常勤講師に依頼することは良いと考える。

→業績にあるが、鉄録会でかなり経験があり国語科古典課主任としてカリキュラム作成もしており、読む力を教える能力は十分であると推察できる。

→非常勤講師の任期は1年であり、専任教員退職による人事に伴い令和3年度以降は新たな専任教員が担当するものとなる可能性もあるため承認するものとする。

(3) 非常勤講師の担当科目コマの発議・提案について（学校教育学科）1件

○担当から資料3-1に基づき「非常勤講師担当科目コマの発議・提案」について説明。

→提案通り承認。

◇国語表現・日本文学史（現代） ◆担当教員退職に伴う措置

○担当から資料3-2に基づき「非常勤講師採用候補者の提案」について説明。

→提案通り承認（予定1年間）。

◇日本近代文学会・昭和文学会・日本社会文学会・横光利一文学会

新規採用 ランク B

→教員選考結果報告書の主な研究・教育業績覧は最低3つ記載していただきたいので追加をお願いする。

(4) 非常勤講師の担当科目コマの発議・提案について（語学教育センター）2件

○担当から資料4-1に基づき「非常勤講師担当科目コマの発議・提案」について説明。

→提案通り承認。

◇中国語コミュニケーションⅠ-B・Ⅰ-D、中国語コミュニケーションⅡ-B・Ⅱ-D

◆科目担当者退職のため

◇English CALL Ⅰ J-B・T-D・T-E、English CALL Ⅱ J-B・T-D・T-E

◆科目担当者退職のため

○担当から資料 4-2 に基づき「非常勤講師採用候補者の提案」について説明。

→提案通り承認（予定 1 年間）。

◇日本中国語学・日本近世語学・日本対象言語学

新規採用 ランク S3

→規定上はシラバスが必要となっているため、統一シラバスであると考えられるが添付する必要がある。

→統一シラバスであるため承認するがシラバスを提出すること。

◇JALT 全国語学教育学・英米文科学・大学英語教育学など

新規採用 ランク A

→学校教育学科と同様に業績に追加記載をすること。

(5) 特任教員の任期更新について（教職支援センター）2 件

○担当から資料 5 に基づき説明。→①については期間を 1 年に変更し 承認。②は提案通り承認。

◇① B タイプ・R2. 4. 1 から 3 年間

→職歴にもあるとおり採用から 5 年が経過しているが、現在特任教員の任期について議論しているところであるため、該当者についてはどのように考えたらよいか。

→規定上 70 歳まで更新可能であるが、今回の更新により 3 年とするのではなく、基本となる 1 事業年度とするものが適当であるとする。

→課程認定関連から特別な事情があるものとして更新の承認をするが、3 年ではなく 1 年の期間で認めるものとする。

◇② B タイプ・R2. 4. 1 から 3 年間

→教職支援センターには、都留市内校長経験者の採用もしているが、その採用枠においては一定年数経過により新たに採用がされるようお願いしたい。

→要望として承知するが、都留市内の方には大学教員採用資格を充たさない方がおり適任者がいない場合がある。

→今回の更新により任期満了となることを必ず伝えておくこと。

(6) 今年度に採用する専任・特任人事について

○担当から資料 6 に基づき説明。提案通り承認。

◇退職者数を考慮して国文学科と英文学科に専任教員を各 1 名募集することが適切であるため専攻分野の検討をお願いします。比較文化学科については進行中の問題の解決を優先する。

◇学内運営の関連人事として学校教育学科から移籍予定の専任教員 1 名を補充する。

◇学校教育学科・該当教授の国際教育学科移籍が適切であるとする。なお、国際教育学科からは移籍の要望書が提出されている。

◇今後の受験者の動向を見て経営審議会・理事会で了承を得るものとする。

◆国際教育学科への該当教授移籍について教員選考委員会を組織する。

●上記の教員選考委員会委員決定

◇担当から資料 6 に基づき、他部局に所属する教員の令和 2 年度における担当科目について要望。

該当教員①について令和 2 年 4 月からの移籍を希望。また、令和 2 年度の担当授業は移行期間を設けていただきたい。該当教員②については学科内において改めて検討する。

→該当教員①本人は、研究業績などを評価していただいていることはありがたく、地域をフィールドワークとする研究においてもメリットがあるため移籍に同意しており、地域交流研究センターとしても、メリットが見込まれるため、一部、外部団体との調整が必要となってくるが移籍について同意できる。

→各部局での持ちコマについて議論する必要はあるが、再度、本人の意思確認をして教員選考委員会を組織する。菊池先生についての問題についても次回の教育研究審議会を期限として学科内の決定をしてもらう。

(7) 令和2年度 開講科目について (英文学科・国際教育学科 教職免許)

○担当から資料7に基づき説明。提案通り承認。

(8) 令和2年度 開講科目について (国際教育学科)

○担当から資料8に基づき説明。提案通り承認。

(9) 令和2年度 非常勤講師授業担当科目について (第7回)

○担当から資料9に基づき説明。提案通り承認。

(10) 令和2年度 非常勤講師授業担当科目について (取消) (第5回)

○担当から資料7に基づき説明。提案通り承認。

(11) その他 ○なし

3 報 告

(1) その他 ○なし

4 その他 ○なし

5 閉 会

以 上